

安全・適正委員会からのお知らせ No.71

「“運”がよく事故や災害に至らなかった、危なかった」という経験はありませんか？

このようなヒヤツとした、ハットしたことを「ヒヤリ・ハット」と呼びます。

事故対策は事故が起こる前に～ヒヤリハット～

センターでは年間 50 件を超える事故が発生しています。その中には、事故がきっかけで就業を続けられなくなる会員さんが残念ながら毎年います。

就業を続ける場合も、病院にかかったり、周りの方に心配していただいたり、相手の方がいたら謝罪をしたりと、事故がなければかからなかった労力を要します。

事故を経験した会員さんには、当時の状況をしっかり振り返ってもらい、その一部をこの『安全・適正委員会からのお知らせ』でも皆さんにお知らせしています。

事故は起こらないに越したことはありませんが、起こってしまったからには、その経験を多くの方と共有し、皆で防止していくとの趣旨からです。

この「ヒヤリハット」は、事故よりさらに前の段階です。病気には早期発見・早期治療が有効なのと同じで、ヒヤリハットの時点で事故対策を講じると、より被害を防ぐ効果が期待できます。

もし、最近ご自身が体験したヒヤリハットで、紙面で紹介（匿名）してもよいものがありましたら、ぜひ事務局へお知らせください。

投稿やクイズへの応募に同封していただいてもけっこうです。

あて先

〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通 3-12-1

名古屋市シルバー人材センター『ヒヤリハット事例』係
(裏面の下半分を使ってください。コピー可)

事故とヒヤリハットの関係

事故とは

予期せぬ出来事により、ケガや物の破損など何らかの損害が起きてしまった状態

ヒヤリハットとは

事故にはならなかったが、場合によっては事故に直結したかもしれない状態。例えば、未然に気づいて防ぐことができたケースや、ミスがあったものの被害には及ばなかったケース。

ヒヤリハット事例から学ぶ

重大事故を未然に防ぐには軽微な事故の対策を講じることが効果的とされています。

また、軽微な事故を防ぐにはヒヤリハットの対策を講じることが効果的とされています。

重大事故が起きないように、軽微な事故やヒヤリハットの情報をできるだけ早く把握し、的確な対策を講じることが必要です。

令和4年度事故者向け安全就業研修会 資料より

ヒヤリ・ハット体験事例 記入例

いつ	午前	午後	夕方	夜	就業職種	家事援助		性別	女
	就業中		途上		人数	ひとり	複数	年齢	72歳
いつ	就業先から自転車で帰宅途中				どこで	狭い路地で			
なにが	車が猛スピードで				どうした	横を通過した			

ヒヤリ・ハットした時のあなたの状態は？（該当するものに○をつけてください。複数可）

注意(集中力)が足りなかった		体のバランスが保てなかった	
作業において判断を誤った(迷った)		体の調子が悪かった	
あわてて作業していた		作業方法を間違えて覚えていた	
近いところがよく見えなかった		手順を省略しても大丈夫だと思った	
事前の安全確認を怠った	○	作業環境(整理整頓)がよくなかった	

上記の事例について、反省・改善・対策等お気づきのことがありましたら記入してください。

狭い路地や工事現場の近くは避ける。通行する場合でも十分に注意する。

ヒヤリ・ハット体験事例 提出用

いつ	午前	午後	夕方	夜	就業職種			性別	
	就業中		途上		人数	ひとり	複数	年齢	歳
いつ					どこで				
なにが					どうした				

ヒヤリ・ハットした時のあなたの状態は？（該当するものに○をつけてください。複数可）

注意(集中力)が足りなかった		体のバランスが保てなかった	
作業において判断を誤った(迷った)		体の調子が悪かった	
あわてて作業していた		作業方法を間違えて覚えていた	
近いところがよく見えなかった		手順を省略しても大丈夫だと思った	
事前の安全確認を怠った		作業環境(整理整頓)がよくなかった	

上記の事例について、反省・改善・対策等お気づきのことがありましたら記入してください。